

## 審議会等の会議結果報告書

【担当課】こども課

会議の名称	第2回茅野市こども・家庭応援会議		
開催日時	令和5年8月22日(火) 午後7時00分～午後8時45分		
開催場所	茅野市役所 701・702会議室		
出席者(名簿順)	<p>【委員出席】 市川純章委員、両角薫委員、戸川榮司委員、岩下ふみ子委員、竹内ひかり委員、大作公明委員、小坂秀王委員、北澤いずみ委員、茅野市保育所保護者会連合会委員(代理)、小倉誠司委員、石井聖文委員(代理)、宮原渉委員(代理)、小口直喜委員、北澤孝郎委員、前島敦子委員</p> <p>【市側出席】 山田教育長、五味こども部長、平澤健康福祉部長、守屋地域福祉課長、小穴範子健康づくり推進課長、阿部こども課長、笹岡幼児教育課長、渡辺学校教育課長、小平こども係長、飯島こども係こども育成担当、高橋こども係主査、矢崎こども係主事</p>		
欠席者(委員のみ)	渡辺修委員、原田正樹委員、山口圭子委員、勅使川原はすみ委員、味澤広明委員		
公開・非公開の別	公開	・ 非公開	傍観者の数
			0人
議題及び会議結果			
発言者	協議内容・発言内容(概要)		
会長	司会進行		
副会長	1 開会		
教育長	<p>2 教育長あいさつ</p> <p>こんばんは。本日は令和5年度第2回こども・家庭応援会議にお集まりいただき誠にありがとうございます。</p> <p>さて、小中学校の関係は、日の前後はあるが、今週中に学校が始まる。夏休み中、子どもの姿や声あまり聞こえなかった。今週から子どもの声をまた聞くことを楽しみにしている。職員も新学期に向けて準備をしている。今日は特別教育支援員の研修会を行った。約50名で2時間弱であったが、コロナ禍ではできなかった研修が久しぶりに開催できてよかった。</p> <p>さて、本日は、令和4年度第3次どんぐりプラン、第二期茅野市子ども・子育て支援事業計画の進捗報告及び、前回に引き続きどんぐりプラン中間見直しについて皆様にお諮りする。第一次どんぐりプラン策定時から20年が経過し、子どもの数、子どもを取り巻く環境が大きく変化している。その中で、子育て環境や課題、子どもを支えるための活動のあり方、様々な視点でのご意見を頂戴する中で、子育て・子育て施策の充実に努めていきたい。</p> <p>本日はどうぞよろしくお願いいたします。</p>		
会長	<p>3 会議事項</p> <p>(1)審議会等の会議の公開の確認 前回同様①本日の会議を公開とすること、②会議録の公表を市ホームページでおこなうこと、③公開する議事録の発言委員の氏名を「委員」として記載して</p>		

	公表してよいかを委員へ確認
	承認
こども課長	(2)第3次茅野市こども・家庭応援計画の進捗状況について 資料1に基づき、どんぐりプランの令和4年度進捗状況を報告。
	質問事項あるか確認 意見・質問なし
幼児教育課長	(3)第二期茅野市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について 資料2に基づき、子ども・子育て支援事業計画の令和4年度進捗状況を報告。
	質問事項あるか確認
委員	私は、地区こども館の運営委員にもなっているが、今の報告の中の後半(資料2、9ページ以降)に、地区こども館で学童保育も検討していくというニュアンスのことがあちこちに書かれている。地区こども館の運営は、地区に委ねられていると思うが、今度そこで学童保育をすとなると、運営の形が変わるのかどうか。また、そういったことについては、地区こども館の存在意義に関わることなので、天下りのようにこうなるという説明ではなく、地区子ども館ごとの運営委員会と十分な協議をされた上で、検討を進めていただきたいので、よろしくお願いたします。
会長	地区こども館と学童クラブという実施主体が違うものを、動かしていくということに関して、地区ごとにあるこども館運営委員との関係は。という質問について、現時点で回答できるようなことはあるか。
こども課長	はい。国の方針では放課後子ども教室を子どもの居場所と位置付け、今後市町村で実施していくこととしている。茅野市では、地区こども館がやるのではなく、国の想定としては、学校から帰る児童も学童クラブを利用する児童も一緒に、児童が帰る前に放課後子ども教室へ行って、例えば、スポーツや、何かを作るなどの教室をやってくださいという方針を出している。茅野市においては、地区こども館や学童クラブという子どもの居場所があるので、どこでやるというのではなく、すべての子どもが参加できる教室ということで考えており、まだ検討段階という状況である。 またもう一つ、先ほど説明にあったように、来年度以降、永明小学校の学童クラブについては、ちの地区コミュニティセンターの改修を行い、令和7年度からそちらに学童クラブを開設し運営していくということになるので、ご承知おきください。
会長	質問は、その地区ごとの協議はどうなっていますか。ということだったので、「やります」とすると、決定したのかということになるのですが。地区こども館と学童クラブとの学校の関連で。
こども課長	その辺も含めて、今、行財政改革で、いろいろな事業があがっているので、

<p>会長</p>	<p>そういった中で今後検討していく。今の時点で、特にどこかの地区で検討を行っているという事実はない状況です。</p> <p>質問事項あるか確認</p> <p>質問なし</p> <p>では私の方から。12ページ⑨番放課後児童クラブの役割をさらに向上させていくというのはどういう意味になるのか。学童クラブの置き換えではないのですよね。</p>
<p>こども課長</p>	<p>はい。そうですね。支援員の専門性を高めるという意味で、国が学童クラブに対して基準を設けている。その一つとして、支援員が「放課後児童支援員」という資格を有しているものを配置する必要があるとしている。質の向上というか、支援員にその資格を取得させて専門的な知識を持ってもらうことで、さらに学童クラブを充実させるということ。茅野市では、国の基準に合ったように、各学童に必ず有資格者を1人ないし複数置いている。そういったところから、今後も質の向上、また、運営の向上について図っていくということになります。</p>
<p>会長</p>	<p>細かいことでまた後で勉強しないといけないのだが、学童保育は保育園の小学生版で、預かりであって教育ではない。役割の向上や、質向上とはどういうものかというのがあったけれども。国がいう児童クラブというのは、それ以上に何かあるのかと思ったのだが。13ページ⑩放課後児童クラブの取り組み内容を周知していく。この取り組み内容とは、放課後児童クラブでやる教育コンテンツか何かを知ってもらうというニュアンスかと思ったのだが。何か違うものができているのかなと思ったのだが。これは国が言ってきたものに合わせることだから、勉強すべきなのは我々なのかもしれないけれども。何か違うことが行われようとしているのだという印象は受けました。</p> <p>私も、放課後クラブは、市の施策ではなく国の施策だから、私たちがどう解釈するかは、半分必要だと思う。</p> <p>他何か質問ある方いらっしゃいますか。</p> <p>質問等なし</p>
<p>見直し専門委員長</p>	<p>(4)第3次茅野市こども・家庭応援計画見直しの進捗状況について 見直し専門委員会大作委員長が、資料3により、どんぐりプランの見直し進捗状況について、これまでの見直し委員会の協議内容、中間見直しの考え方、方法、スケジュールについて説明。 その後、資料3別紙により、重点取組項目の候補一覧の説明。</p>
<p>会長</p>	<p>第3次茅野市こども・家庭応援計画の見直しで、専門部会で進めていることの中間報告でした。要点としては資料3の別紙重点取組候補。これが、第3次を作った時になかったことというか、追加できるのではないかなということ。10年ごとに見直している計画が、半分の5年、実際には6年経過したところで見直してみると、この辺を充実させることが必要かなと。少し手薄かなという気づき</p>

副会長	<p>があったところが、13項目あがっている。こども含めて、まとめてご意見をしてもらおうというところ。皆さんの出身母体の最近の活動や、そこで出ている問題、意見等を含めて、今日の進捗報告の内容についてコメントをいただければ。</p> <p>最初に、どんぐりネットワーク茅野から。</p> <p>今、子育てアンケートをオンラインの手法を使って、市内で多数集めている。100件以上か200件ぐらい保育園の団体など、当事者から、いろいろな意見が集まってきている。そこで感じたことは、要望や評価、満足度合が多い。それはそれで受け止めて、このような情報を集めて市民がどのようなことを考えているかを知ることは大切だ。</p> <p>しかし、これは一方的な発言で終わっているのでは、そのことについて市民の間で双方が考えたり話し合う機会に発展しないと深まらないのではないかと考えた。</p> <p>それではマイクをまわします。</p> <p>読り一むinちのから。</p> <p>読り一むinちのからは、重点取組項目として意見を載せさせていただいたが、実際にどんぐりプランにどう反映させるか文書にまとめるのが難しい。</p> <p>実際の活動は、コロナが落ち着いてきたので、活動が活発になっている。会議も月1回程度行っており、この見直しについても随時報告し、意見を募っている状況。新たな意見はなかなか出ないが、引き続き一緒に取り組みたいと思っている。</p>
委員	<p>園長会から。</p> <p>どんぐりプランの施策目標：学ぶ・支える・つなぐ・親育ちは、すべて保育園に入っている部分だ。今、夏休みに入ってサマーチャレンジということで、小学生から高校生まで幅広い世代が保育士体験に来ている。また、校長先生はじめ小学校の先生も一日保育士体験に来ている。子どもたちが遊びから主体的に動いているというのを実際に見てもらい、その中で、先生たちがこれを保育園から学校へどうつなげていくか考えてくださった。ごっこ遊びでは、虹に関心を持った子どもたちが、色を出すために草花を使ってみたり、絵の具で色を混ぜたり凍らせるなど工夫をしていて、保育士はそのための環境、素材や道具を用意する。このような姿を見てもらい、幼保小から中学高校まで連携ということで、子どもの様子を見ていただけたかと思う。</p> <p>また、行事の再開が活発になる中で、行事の見直しを行い、職員が業務過多にならないようにしながら、子どもにとって本当に必要な行事かを考え工夫しながら進めている。</p> <p>どんぐりプランのことも、市民の方や行政がみんなで考えたことを、保育園でどうやって活かしていくかを考えて進めていきたい。</p>
委員	<p>サマーチャレンジは社会福祉協議会のボランティアリストに載っているものかと思うが、実際に今、どのぐらい来ているか。</p>
委員	<p>玉川保育園は、大きいのでサマーチャレンジの小中学生は12人、保育士体験の小学校の先生は10人ほど様々な方が来ている。コロナやRSウイルス、ヘルパンギーナなどの感染症も流行っているので感染対策が難しい中、気を付</p>

<p>委員</p>	<p>けながら行っている。</p> <p>校長会から      どんぐりプランについては、どの項目も小中学校に該当して、一番支えていただいているところだと感謝しております。</p> <p>今年度の大きな変化として、6月に学校と地域の連携の仕組みでコミュニティスクールがある。茅野市が今まで行っていた茅野市型コミュニティスクールの仕組みを改めて、国の法律に基づくコミュニティスクールをスタートさせた。従って13小中学校すべてで今までやってきたことを基にして新たにスタートした。これにより、地域の皆様に小・中学校教育・運営へ参画を募り、よりよい教育をしていく。そしてまた、そこが拠点となって、地域づくりへ参画していけるよという。スタートしたばかりですが、それぞれの小中学校が特色ある学校づくりを進めている。</p> <p>重点取組項目の4,5,7,9のあたり、子どもの主体的な活動の応援、そしてその中で社会性を育む、従ってそういう体験機会の場を設定しなくてはいけないというところが、まさにその通りだと思う。</p> <p>今年度、北部中学校では、公民館活動を中心として一緒に力を合わせていこうということ、地域に呼びかけさせていただいた。地域の方々から、こんな活動を一緒にやれないかという話をたくさんいただき、うまく日程があったところで、今年度実施をしている。細かいところでは、生徒会活動だけでなく、吹奏楽部や合唱部が、今までコロナでできなかったイベントを再開したいので協力して欲しいというお話をいただき、子どもたちの活躍する場を増やしていただき本当にうれしく思っている。夏休みでも、北部中学校の5つの行政区から、寺子屋という夏休みに小学生が勉強するために集まるところに、中学生に来てもらい教えて欲しいという話があり、何人かお世話になった。それ以外のイベントへの参加の話もいただいて嬉しく思っている。</p> <p>そうしていく中で、ここ2、3年断ち切れていた繋がりを、復活させるというより、再構築という表現がいいのかと思うが、学校と地域との新しい連携を探りながら、この重点取り組みに当たるところを達成できるように努めていきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>茅野高校から      高校生になると市町村から離れ、県立や私立の学校になりますが、茅野市には高校生の段階までこども部や健康福祉部、社会福祉協議会も含め支援をいただきとても感謝しております。</p> <p>先ほどの見直し専門委員会の話にあったように、高校を卒業して初めて社会に出て、そこでギャップを感じて困ってしまうというのは、実は高校の一つの課題である。それを少しでも打破していくために、今年から2年生がデュアル実習ということで、企業さんへ一日お預けするという活動を始めている。学校は、枠が非常にきっちりしているが故に、なかなか外との交流が図れない。高校としても、学校だけで教育を完結するのではなく、地域にも育てていただくという形でいろいろな取り組みを始めている。</p> <p>また、異年齢集団の体験というところで、生徒たちが一番成長する機会というのが、そういう場である。例えば高校生だと、ちょっと背伸びをして社会に出てみたり、大学生と接することで成長していく。また、下の世代、小中学生、保育園児との交流の中で、優しさが育まれる。そういう異年齢の集団と接することは、なかなか普通の学校生活ではできないので、そういう場に出たときに、本当に成長することが見て取れる。そのため、ぜひそのような機会を、幼保、</p>

委員	<p>小、中学校や大学、社会、企業さんも含めて作っていただいて、地域全体で子どもたちを育てていくということの構築がさらに進めばいいと感じた。</p> <p>諏訪地域振興局から この短期間でよくまとめていただいたと感服している。 私自身が4月に異動してきたため、知らないことが多い。その中で、重点取組項目一覧10番の子どもの貧困対策のヤングケアラーについて。先日振興局に県のヤングケアラー対策について問い合わせがあった。実は振興局にはヤングケアラーの担当部署がなく、県でも担当が一人で全県のことをやっている。県より市町村の方が詳しく、県が遅れているという状態。その中で、昨年全県でヤングケアラーのアンケートをとった。先ほどの問い合わせの内容が、諏訪地域のヤングケアラーの人数を教えてくださいということだったのだが、アンケートをとったのに把握できていない。今後、もっと勉強していかなければならない。茅野市の重点取組にはそのことが入っていてさすがだと感じた。 県の取組としては、フードドライブをやっている。今、大きな企業さんは、SDGsの観点から、何かをしなければならないという状況になっており、子どもの支援に対する寄付や、食料を提供したいという話が多い。企業規模が大きいほど、金額や量が多く、こうした、時代にマッチした受入体制を作ることが課題となっている。県としてもどんぐりプランにできることがあれば協力していきたい。</p>
委員	<p>警察署から 警察からですが、今、少年補導というか少年非行の数が、非常に減少している。昔は、暴走行為や喫煙など表に出るようなわかりやすい行動が問題になっていたが、今は、インターネットやゲームが普及しており、学校等との情報交換の中でも、インターネットの誹謗中傷などが問題として大きくなっている。問題になるのは生徒間のトラブルもあるが、やはり心の隙を満たすために、インターネットで見ず知らずの人と仲良くなり、場合によっては家出につながり警察沙汰になってしまう。 重点取組項目一覧に社会性の話があったが、社会性やコミュニケーション能力が不足していると、身近な人と繋がることができない。その心の隙を埋めるためにインターネットの甘いさきやきとか、自分の都合がいいものにどんどん流され事件に巻き込まれてしまう。中学、高校からでは難しいので、小学校、保育園の小さいころから、学校やそれ以外の場で友達を作る、横のつながりを作るといことが社会性を育むために必要だと感じた。 また、私は警察に入ってから20年以上になるが、この20年で今がこのような世の中になるとは想像できなかったし、この先20年で少年たちがどのようになるかはわからない。その中で、法律はなかなか見直すことが難しいが、どんぐりプランのように社会に合うように見直すことは、非常に素晴らしいと思う。そのために警察も協力していきたい。</p>
委員	<p>茅野市PTA連合会から 重点項目として性被害等犯罪から子どもを守る、部活動の支援をあげた。性被害、ネット犯罪などは、初めに相談されるのが親だと思われるので、まず親が勉強し理解しなければ相談にも乗ることができない。そのために、子どもや親を対象に指導してもらえる機会があればありがたい。 また、ジェンダー等の勉強会も必要だと思う。これは、SDGsでも取り上げら</p>

委員	<p>れていて、学校では様々な対応はしていると思うが、今後、地域と学校との繋がりを深めていくにあたって、地域の人や保護者にも正しい対応ができるよう勉強する必要があると思うので、そういった勉強会を開いていただけると嬉しい。</p> <p>部活動の支援は、競技によっては練習試合をするにも遠方に行かなければならない。その場合にはバスを使うのだが、金額が結構かかってしまうので、支援いただければありがたいと思っている。</p> <p>保育所保護者会連合会から 保護者会連合会では、コロナ禍でできなかったどんぼんのイベントや、こどもまつりに活動委員会の方で参加している。広報委員会では会報を作って、各保育園の紹介等を年2回発行して配布している。当会議委員会では、こちらの会議に参加し、どんぐりプランという大きな計画があり、たくさんの方が子育てに関わっていただいているということを勉強させてもらっている。</p> <p>子どもが自分で考えることができるよう育つにはということは、日頃から親も悩むところではある。先日、保育園から虐待についての講演会の話があり、出席すると、ためになるお話を聞くことができた。このような講演会があれば声をかけていただくと非常に勉強になると思った。</p>
委員	<p>人権擁護委員会から 人権擁護委員は啓発活動、保育園、幼稚園等の啓発活動、全小学校への読み聞かせ活動、中学生への人権教室が主な活動となっている。</p> <p>この活動を通して、子どもたちに、命を大切にすることや、みんなと仲良くすることを考えたり知らせたりする機会になっていると思う。学校でもやっていると思うが、外部として入っていくことで、真剣に聞いてくれる。自分以外の誰かではなく、自分自身の問題として捉える力になってほしい。</p> <p>今は子どもが対象であるが、できれば、保護者や地域の方、そういう人たちも子どもを通して、知っていくことが大事。市でも人権の研修等を行っているが、私たちの保育園などでの啓発活動を数人でもいいので様子を見てもらえれば、もっと広がっていくのではないかと考えている。また、このことは、重点目標候補一覧にある多様性や、家庭教育の充実、親育ちにも関わっていけることだと思う。</p>
委員	<p>主任児童委員会から 主任児童委員として、こども館や保育園のボランティア、或いは小学校の運営協議会などそういうところにそれぞれ参加させていただいて、子どもたちと接している。4月以降、急にいろんな活動が活発になってきて、私たちも子どもたちと会える機会が多くて大変喜んでいる。子どもたちの生の姿を、地域の大人というか、おじいちゃんおばあちゃんとして、見守る機会を増やしていくのはとても大事なことだと思う。</p> <p>一つ気がかりなことは、学校で子どもたちがマスクをなかなか取れない。もちろん感染症予防という理由はあるだろうが、一方で子どもたちの心身の発達の面が気になる。そういうことを研究されている方の報告書を読むと、マスクをしていることによって子どもたちの対人関係のコミュニケーション力の発達が遅れる。実際小学校の低学年では5ヶ月ぐらい遅れているという報告だった。単に遅れるだけで済むのかと。実際にこれが長期化すれば知的にどうなのか。コミュニケーション時に相手の顔全体でなく目だけで判断するということが</p>

会長	<p>何年も続くことで、子どもの発達に歪められるのではないかと懸念している。</p> <p>校長会からどうか。学校ではマスクをしなさいとなっているのか。</p>
委員	<p>学校では自由としている。とるのもつけるのも自由。個人の判断となっている。</p>
委員	<p>スポーツ協会から 重点取り組み項目候補の13項目の説明を聞きまして、本当に興味深く、考えさせられるような内容だという感想を持った。</p> <p>スポーツ協会からの話としては、協会の女性委員会という、各スポーツ競技団体から女性を委員として選出してもらい、定期的な会議を行う中で意見交換をしている。</p> <p>その中で、サッカー協会では、小中学校で学年が上がってくると、男女の体力差や体格差が出てきてしまい、同じように一緒にチームでプレイすることが難しくなる。そうすると、男の子はいいが、女の子だけでチームを作って続けるということが難しいという話があった。また、バスケットの方でも、男の子は強くてチームをしっかり作れるが、女の子は学校単位でチームを作るのが難しく合同のチームでないと試合にも参加できないという話があった。直接この会議につながるかはわからないが、事例として報告させていただいた。</p>
委員	<p>食生活改善推進協議会から 今年の夏休みに、親子子ども料理教室を開催した。親御さんと、子どもさんで料理を作るのだが、なるべく親は手を出さず、子どもだけでやろうというふうにした。その中で、子どもたちは、自主的というか、主体性がある、自分で考えてこう切った方がいい、炒めた方がいいなどやっていて感心した。ですから、今の子どもたちは結構主体性のあるものに育っていると感じた。</p> <p>また、その時の子どもたちのことしかわからないが、親子のコミュニケーションの取り方もよかったという感想を持った。</p>
会長	<p>いい面もたくさんあるということですね。</p>
委員	<p>福祉21から 福祉21は、障害者や社会的弱者を中心に、どのような対策をとるかということを中心にやっているが、子どもに関しては、このどんぐりプランに委託をしている。老人や障害者への施策なので、子どもの施策はよくわからず、こちらの会議で話を聞かせてもらっている。</p> <p>孫の話だが、社会性に欠けるというか、常識からちょっとずれている。温泉などで公共施設のマナーや社会のルールを、怖いおじいさんとして社会に出て困らないように、いわゆる社会教育をしている。</p> <p>実は、そういう時の子どもへの接し方について、祖父母世代は悩んでいる。分析はできるが、対応・対策がわからない。親も悩んでいると思うが、親世代はネットワークがあり、比較的情報収集ができるが、祖父母世代はネットワークがあまりないので情報を得ることができない。ネットでも調べてみるが、総論はあるが各論になると、具体的な対策というのはない。具体的にこの子に対してどうすればいいのかと困っていることへの対策。これはどんぐりプランにも共通の話題だと思うが、そういうものへ何らかの道標となるようなものがあるといいと</p>

会長	思う。 他に、これだけはというところで、話題提供いただける方がいればお願いします。
委員、事務局	特になし
副会長	5 閉会 それでは、令和5年度第2回茅野市子ども・家庭応援会議を閉会します。お疲れ様でした。